

幼見之教育



第三號

三月號

第十四卷

東京女子高等師範學校內

日本幼稚園協會

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編 (五版)

改訂 增補 系統的保育案の實際

定價 金壹圓參拾錢 送料 金 八 錢

初版以來廣く參考の資料とせられた本書は、時局下幼児保育の再認識と、特に國民學校の新制に對する用意の必要とから到底舊版のまゝに止まることを許されなくなりました。全體に亘る改訂と増補を以て茲に此の新版を供する次第であります。

日本幼稚園協會編

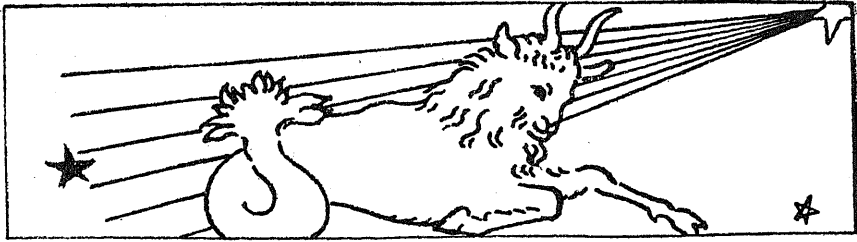
幼稚園唱歌選集 第二輯

B 列四號二八頁

定價 金壹圓
送料 金八錢

幼兒の教育 (月刊)

一ヶ月 金參拾五錢 送料 金一錢
一ケ年 金四圓貳拾錢 送料 共



號三第 育教の兒幼 卷三十四第

目(次)

明治天皇御製謹誦……………倉橋惣三(一)

躰の問題

幼兒保育者の反省……………倉橋惣三(二)

お辨當の時の躰……………及川ふみ(四)

さうすればいゝのでせう……………留岡よし子(六)

參觀記

番町幼稚園……………志村貞子(二)

永田町幼稚園……………上遠文子(四)

野菜を作りませう……………大岩金(七)

國民學校體鍊科教授要項實施細目(一)……………古澤靜子(〇)

皇國民的性格の啓培を目指せる保育の實際……………桑原きよみ(二五)

親の感想

伸びゆく我が兒……………櫻井勝三(三〇)

或る日の幼稚園……………前田善子(三三)

誌上講習 兒童心理學(第十二講)……………牛島義友(三五)

幼兒の母……………(三九)

日本の幼稚園の保育修了式―幼稚園から―國民學校への入學に就て(倉橋惣三)
―玄米食と野菜(園藝室)子どもの質問(清水光子)

保 育 奉 公

大 東 亞 戰 爭 必 勝 完 遂

明治天皇御製

みなし子にかたりきかせよ國のため命すてにし親のいさをを

御製のみこゝろは解き奉るまでもなく明かである。明治四十年の御製であるが、けふこの日の御製かまさへ、ひしくこ感にたへず謹誦し奉るのである。みなし子さみ心をかけさせ給ふたのは日露戦役の勇士の遺児達である。その時の子らは、今や丁度立派な年齢になつて、み國のために盡してゐる。大東亞戦争に勇闘してゐる人々も必ずや少なくあるまい。或は、……自分も亦、その父と同じく盡忠散華の英靈になつてゐる人も數あることであらう。皆、幼き日に、盡忠獻身の父のいさをを語り聽かされつゝ成人した人々である。

身を以て訓ふさいふ言葉がある。これ程、眞に身を以てする訓へがあらうか。しかもその訓へは、親が子に訓ふべきことの中の最も軸心たる奉公報國の訓へである。これ程大きな親の教育が世にあらうか。かたりきかせよこゝろ詠じ出て給へる聖旨は、この教育の貴さ強さを、御歌言葉の奥に示し給へるものにも謹誦し奉るのである。

しかも亦、この貴きいさをを語り聽かせることは、そのいさをを尊重感謝する心を以てのみなし得ることである。而してそれは、國民全體が、その尊重感謝の心一つにする時に於てこそ最も強くなる。子さの中でも、わけても深い關心を禁じ得ざらしめる戦没將士の遺児は、國民全體がこの心を以てその父のいさをを語り聽かせる時にこそ、始めて、その子らしく成人せしめ得るのである。——その遺児らばかりにではない。すべての今日の子さも達に対しても、これ程貴く、これ程強い訓へが他にあらうか。

賤の問題

幼児保育者の反省

—— 賤の根底 ——

倉 橋 惣 三

責任感を以て保育に従事してゐる限り、幼児保育者は日に反省をつゞける。その反省が止つた時、責任感の消耗であり、教育の麻痺である。又恐らく、自分の仕事への、生活への、何んの感激もなく、楽しむどころもなくなるであらう。

幼児保育者の反省は何を反省するか。それは素より一定してゐる譯ではない。しかし、誰れにしても、いつでも反省を禁じ難いことは次の點であらう。

- 一、けふも亦幼児等に親切であつたか。
- 一、けふも亦幼児等の健康をよく氣をつけたか。
- 一、今日も亦幼児等とよく遊んでやつたか。
- 一、けふも亦幼児等の賤けを怠らなかつたか。

但し、かうした反省は、謂はゞ表からの反省である。或は、反省さいふよりも、幼児保育の一般的心懸さいつた方がいゝかも知れない。反省さば、どこかに自分の陥り易い缺點のかすかな自責があつて、それがおのづから省みられずにゐられないのである。

- 一、保育中、ほかのこゝを考へてはゐなかつたか。
 - 一、幼児をうるさいと思はなかつたか。
 - 一、幼児を相手に腹を立てはしなかつたか。
- 之れは一例に過ぎないが、斯うした諸點はその人その人によつて、相當に傷にさわる痛さを感じるこゝであらう。更に、教育者としての普通の反省に、自分の能力、實力に就ての反省がある。自分の繪のまづさ、自分の歌の下手

さ、自分の觀察に就ての無知さ、等々である。前の二項の反省が稍々保育になれた者の反省であるに比して、此の種の反省は、保育そのことの經驗がまだ反省期に入らない間の人々の反省である。これによつて自ら進歩してゆくことが出来るのであるが、實は、きりのない話かも知れない。と同時に、自ら到らざるを反省し得たとしても、今すぐさうすることも出来ない。それをのみ氣にかけては、保育の力もなくなるを免れない譯でもある。寧ろ、その到らざるを以てして、幼児の爲に一層よく盡してゐるか否かこそ、幼児保育上のけふの反省であらう。

しかも茲に、けふのこいふ稍々断片的な反省に對して、自分そのもの、繼續的な反省さもないふものがある。幼児に對し、けふ、さうしたか、しなかつたかといふよりも、自分そのもの、性質が、個性が、趣味が、餘りにもあり／＼と日々の保育にあらはれて來るここの、其のそらおそろしさの反省である。

これに就て、自分こいふものに關して、何等氣にかゝらない人々さ、それを知らないではないが、しかたがないではないかさ平然たる人々さ二種ある。前者を暢氣さいはれてゐるが、後者を何んさいはうか。兎に角くそのいづれたるを問はず、その人そのものに進歩も改善も向上も期し得ないここの一つである。のみならず、その人らしい、餘り

にもその人らしい傾向に幼児を型づけてゆくここのは、保育の結果の上の大きな憂慮である。勿論教育は何んさしても、その人らしい感化を與へるここのに相違ないが、その人らしくのみ偏らされるのは警戒を要するここのである。こいふよりも、餘りにもわれの缺點に添うて偏らすここのはなきか、これこそ大きな反省でなければならぬ筈である。しかし、自分さ肖たものを作つて、そこに反省の機會が失はれてゆくここのも亦、注意を要する點さいはなければならぬ。

○

反省は日々である。しかも、保育に一段落を感じさせられる保育終了期の三月は、一種の總決算的反省の時である。そして、その反省は、今自分を離れてゆく子等の後姿に、あり／＼と何ものかを見せつけられる反省であつたりする。又、漫然たる總決算的結論的であるのみでなく、あの日、あの時の反省的追憶が、あり／＼ともう一回浮び來るここのあるものである。或は又その時それ程に反省もしなかつたここのが、なぜか、今にしてひし／＼と追ひ迫るここのあるものでもある。なぜかではない。あちらではそんなここのなき忘れ切つて、たゞ今日の嬉しさに禮なきをいふ幼いもの、顔が、却つて、その相濟まなきを引つぱり出して來るのである。

保育終了の三月は、幼児教育者にとつて淋しい月である。それは、今まで馴れ親しんだ子らが、今日から離れてゆくからであることは勿論であるが、或は又、餘りにも幼児保育者としての自分が、びつしやりと反省させられる月であるからかも知れない。

しかも、この淋しさは、ほんたうの自分への淋しさは、

お辨當の時の躑

幼稚園でお辨當の時の幼児たちの様子を見てゐるに、心持の上にも、形の上にもいろ／＼のあらはれがある様である。お腹がすいて早くたべたい様子はどの人々も共通の様であるが「いただきます」云つてお箸をこつていただく時にお母様がつくつて下さつたあたりがたい、うれしい氣持を充分にもつて、ほんたうに心の底から「いただきます」である人々、そんなことには全々無頓着な様子でただ口だけで「いただきます」をするものもある。

又形の上でも手際よく食事をしてゐるものもあれば、無

一年々々、自分を幼児保育者として進め、深めてゆくきな力でもある。即ち三月は、幼児にとつての進展の月であるばかりでなく、先生にとつても、進展の月であるのである。たゞ、その進展式を誰れも他人がして呉れないだけである。自己の反省だけが自分を進展させて呉れるのである。

及川ふみ

器用な手つきでお箸をもち、食卓の上や下にあらちちらにこぼしてきたならしくしてゐるものもある。又姿勢なご悪くしておしやべりしながら長い時間食事をしてゐるものもある。この様なお辨當の時の様々の幼児の様子を頭に浮かべながら新入幼児のお辨當の時の躑について考へて見たいと思ふのである。

お辨當の時には幼児たちを躑ける上に、よい機会が度々あるのである。

先づ心持の上の躑について考へて見るに「感謝」の心持の

切實にもたせられるよい機會である。

時局下において充分に食事を與へられる皇國への大なる感謝、作つてくれる人たちへの感謝、手近かなごころのお母様への感謝等いろいろの感謝のこもつた「いたたきます」であるやうにしないでならない。家庭でも躰の充分ゆきまゝいたごころでは食事に對して感謝の氣持がよく體得されてゐるものもあるが、幼稚園としては全幼兒一人ももなくこの氣分を徹底させたいものである。

次に衛生的に食事の前の手洗ひ、合嗽なごの習慣は云ふまでもない事であるが、食事の際食物を充分に咀嚼する事にはごさら留意したい。したがつて食事中は言葉少く靜かによくかんで食べる事である。話しながら食べればお飯やお菜なごをおこしたり、こぼしたりする。

又食事の時間もながくかゝらない様にして席をたつたりおしやべりをしないごの點にも注意したい。

又食べ方についてもお辨當箱、お箸なごの持ち方、お湯の呑み方なごの細かい點にも幼兒にしての作法をよく指導して粗野にならないに躰るのは勿論であるが、姿勢についてもよく注意して、正しい姿勢で坐つたり椅子にかけたり出来る様にさせなければならぬのである。

食事のすんだ時の「ごちそうさま」の挨拶も必ず云はせる事、食後の合嗽なごも忘れない様に習慣づけるご共に、

お辨當箱の後片づけ、こぼしたものは必ず幼兒自身に拾はせるご。鳥や家畜なごの類を幼稚園で飼つてゐる時にはそれにやる様にすることなごは保姆が率先して、實行して見せて幼兒たちにも無駄にしない事をよくわからせるなご細かい點にも躰のよい機會を見のがさない様にありたいものである。

以上かきつらねた事柄は事新らしい事は、一つもない。日常幼兒と一緒に生活する大人がいつも考へられてゐる事ばかりである。たゞ實際幼兒の食事の時にこれ等の諸點が細大さなく注意されてよき習慣として幼兒自身に體得されてゐるか否かといふ事である。簡單なごでも實行は容易なごでない。又習慣として心の底まで體得させるのには相當の時日もかゝる事である。學期の初めに新らしく發足する時に一つの方針をたてて幼兒の躰を考へられる時に是非ごもこのお辨當の時の躰について考へておくご同時に持續的に幼兒の様子について反省して不斷の注意をはらひたいものである。

どうすればいいのでせう

十文字幼稚園 留岡 よし子

○女學生の幼稚園參觀記

ある女學校の五年生が課業の一つとして、一組づゝ參觀に來ました。昭和十七年の暮のこゝです。次は感想記の一部です。

「前略……幼稚園といふ所は、たゞ可愛いゝ子供を歌つたり、遊戯をしたりして遊んでるればいいのだと思つてゐた。まつ來てみて驚いた。あんまりガヤ／＼騒いでゐて、うるさくて頭が痛くなつて來た。子供つて何てうるさいものだらう、幼稚園の先生は毎日よく我慢してゐられると思つた。やがて先生の靜なピアノがはじまるゝ大部分の子が、をさなく竝んで瞑目した。見てゐるゝ何人か小さい子が若い先生がいくら注意しても、ふざけてゐる、見てゐる方がぢれつたくなつてしまつた、その内漸く靜になつて廣い講堂(遊戯室)がしんぞする。正面に國旗の額、右に宮城、左に明治神宮、少し離れて靖國神社の額が掲げてある、すつミ右の方に神棚が祀つてゐる。ピアノに合せて「禮」をし

てから「君が代」を歌ひ出した、月曜日には「君が代」を歌ひ、「誓」をするといふこゝだ、意味がわかるのかわからないのか、ミにかくミの子も一生懸命に歌つてゐるその眞剣さには思はず目頭が熱くなる。

それから「ワタクシタチハ……」こゝよい日本人になりませうといふ「誓のこゝば」を一人の確した子の言ふ後について皆がいふ。その嚴肅な寮圍氣に私は涙が出るのをこめられなかつた。(中略)私にもさ／＼あまり子供が好きならはない。でお遊びの時間になつて、いきなり「お姉ちゃん遊びませう」ミ手をひかれて、少し變な氣持がした。久々で童心にかへつて私は子供の様に遊んだ。やがて時間が來て歸る時に「お姉ちゃんまた來て頂戴ね／＼」といはれた時にはもう可愛らしくて本當に別れたくなかつた。「子供が嫌な人でも幼稚園の先生をしてゐるゝ好きになつて人相が變つて來る」幼稚園の先生が仰有つたが本當にさうだらうと思つた。私は生れてはじめて幼稚園を參觀して今まで認識不足

であつた事を恥しく思つた。やがては母なる私達に取つて本當に意義のある一日であつた。先生方の御苦勞の一通りでないこゝをしみじみ感じて第二國民の育成にお盡しできる事を深く感謝した。「後略」かうした意味のものが實に多いのです。そして「子供が出来たら幼稚園へ入れなければならぬ」と思つた「ミ附加へてゐるものもありました。

この參觀の機會がなかつたら、多くの女學生は、生れて一度も幼稚園(必ず子供を入れなければならない)と思ふ。を參觀せずに母になつた)かもしれないと思ふ。何れは共に協力して皇國の子を育てるべき幼稚園の先生方の御苦勞を知る折がなかつたかもしれない。世の中にこれ程の女學生、又多くの母なる人々が幼稚園を知らず過してゐるでせう。母なるべき人々に幼稚園を知つて貰ひたい。廣く幼稚園を知つて貰ふにはどうしたらいいのでせう。

○ある父親の話

「幼稚園は子供を甘えさせていけない。子供の機嫌を取つて我まゝにさせる。幼稚園へやるより自分の家の砂場で遊ばせた方がみんなに子供の爲にいいからぬ、自分の子供は幼稚園にやらない」。とある幼稚園関係者の集りできた話。昭和十七年春の頃だとの事。近頃の幼稚園を御覽になりましたか?「いいへば、外國のを二三見たが日本のはあま

り知らない」といふことで「まづ日本の近頃の幼稚園を見てから御意見を伺ひたいものです」といつたら「忙しくてね」といふことだつたさうな。「忙しい」全く「忙しい」男の方に幼稚園を知つて頂きたいものです。幼稚園のよい發展の爲にぜひ、よかれ、悪しかれ現状のありのままを知つて頂きたいものです。知つて頂くにはどうしたらいいのでせう。

○雪の日に缺席した子供のこゝば

昨日は雪が降つて寒かつたこゝね。でもお休みしないで元氣よく幼稚園へ来た方が澤山ありましたね。○さんはお母さんが寒いからお休みしてもいいよと仰つたけれど僕もうしてもお休みしないつて一生懸命にいらしたのね。」

「○さんはうれしさうにほゝえんでゐます。」

「先生僕も……おちいさんがお休みつていつたけれど、いつたの」、「さう」つよいのね!先生はこゝぞ感嘆の意を表します。突然抗議が来ました。

「先生僕は……僕はあのゴム靴がないから、濡れるから、いつちやいけないつて……」

「さうやしさうに、ひたむきな抗議です。僕も「私も」「マントがないから」「傘がこわれてゐるから」……」

さうだつた! 子供も來たい、親も出したい、幼稚園では取つて置き炭をカン／＼おこして、「一人來た」「ホラ二人來た」と待つてゐる……のに。だのに、雪の日にはいて

いか、事實が立證してゐるそんなことは黙殺してしまへ……さういふところで誰か……いつてゐる様な氣がしますが……

○何といつても集團生活のこゝだから傳染病、悪いこゝばの流行は止むを得ないこゝ……さしてしまつていゝものでせうか。

○體力には限りがある、内外共に用事は増す一方、それがあれこれ苦に病んでは結局、心身共に疲れはてゝそれは、かへつて職務にも不忠實になる大概のこゝころは眼をつぶつてその日……を過す算段……こゝこゝまれば何にも構はないのですが……

歩き乍ら、車にゆられながら……食事しながら……入浴の時、床……に入つてから……

さうすればいいのでせう、に責められるのです。

薬やさんが薬を賣る爲に凡ゆる方法を講じてゐます、所謂宣傳さういふこゝも徹底的にやつてゐます。ま……に、良薬であるを信じてこれを一人でも多くの人に知らせたいとあれば……もかうもするのが本當でせう。私はよく考へさせられます。私共の仕事はまだ……知らない人があつたら知つて貰はなくしてはならない。思ひ違ひしてゐる人があつたら早く本當の姿を見せて思ひ直して貰はなくしてはならない。と思ふのです。

幼稚園に來た子供を扱ふのが保姆の仕事でせうか。來

られない障礙を取除く爲に保姆が何か考へなくてもいゝでせうか、叫ばなくてもいゝでせうか。

學校や家庭に對して、もつこ働きかける餘地はないでせうか、協力を求める必要はないでせうか。

最後に行當るのは生活と職業の衝突です。一日二十四時間を保姆として全部使ふわけにはいかなないので……それなのに一日三十時間もほしいのですから……一方保姆でない生活の方も一日三十時間もほしい有様になつて來てゐるのです、いかに計算しても答が出て來ないので。「さうしたらいゝのでせうか……いはざるを得ないので。意氣地なしの泣言でせうか。私は「さうしたらいゝでせう」、と戦ひ抜かなくてはならないのです。(十八、三、九)

參觀記

番町幼稚園參觀記

一月二十六日、保育實習科五十五名と共に麴町區六番町の番町幼稚園を參觀させていたといふ。參觀者一同保育に經驗淺い上、幼稚園參觀ははじめてのことなので、井の中の蛙大海に出づるの感あり、種々有益な教をいたゞいたことを深く感謝してゐる次第である。こゝにその一日の概略を記すにあつて、僅か一日の參觀、よく番町幼稚園そのものを傳へし得ざること、またこの不見識な眼に或は誤り映つた點の多いであらうことを惧れ、豫め御許しを願つておきたい。

午前九時、番町國民學校の正門前に集まる。薄曇りの寒い冬の朝、番町の邸町はひつそりと靜かである。まだ早いので(九時半始り)登園の子供達の姿は多くみられなかつたが、それでも一人、二人と元氣な足どりで街角からやつてくる。門を入ると立止つて正面校舎に向つてお辭儀をしてゆく。外套も手袋もつけず上被だけの元氣な姿もみられたのは頼もしかつた。正面出入口より入つて右側(國民學校校舎の北側一階)が幼稚園である。主任の徳久先生がお迎へ下さつて應接室へ御案内下さる。國民學校の朝禮を了

志村貞子

へられた校長先生がわざわざ「お出で下さつてこの幼稚園の先生方はすべて皆さんの先輩(保育實習科御出身)であるから、いはゞ今日は親類の家へいらつしやつたやうなものである。遠慮なく質問し、ゆつくりと參觀してゆくやうに」との御挨拶をいたゞく、ついで徳久先生から番町幼稚園のしをりをいたゞき、この幼稚園の大略について御説明を伺ふ。在籍幼児二〇四名が、花組(二年間在園の年長兒)海組(二年間在園及一年間在園の年長兒合併)山組(二年間在園の年長兒)川組(二年間在園の年長兒中早生れの者及一年少兒の合併組)鳥組(年少兒)の五組に編成され一組平均四十一名、鳥組には三年保育の、明けて五歳の幼児が四名居る由伺ひ、先づ先生方のお骨折が思はれた。園庭は北側にあるのと、プールが大部分を占め、防火のため蓋を取つてあるので此の頃は全く外に出られず、たゞ國民學校の授業時をみて、校庭に遊ばせるなどの事でなか／＼お心遣が大變だと思つた。この日の各組の保育豫定案をうかゞつてから園舎各室へ御案内いたゞく。その前については國民學校の方にある衛生室をみせていたゞく。こゝにはレン

トゲンの設備があつて、幼児は年一回マントー氏反應を見、陽性の者には更に血流及レントゲン検査をする事この爲早期発見して手當を受けられた例などを伺ひ、本當に行届いた設備を羨ましくもまた當然かうなければならぬ等とも思つて拜見した。保育室各室は花組には草花の、鳥組には鳥のと各組それ／＼名に因んだ美しい色刷の額が室の入口に掲げてあり、室内にも美しい額が多く掲げてある。色美しいお花が形よく活けられてある。陽ざしは弱いが各室ともに明るい和やかな氣が満ちて、そこに遊ぶ子供達も暖かく明るく楽しさうである。自分達で拵へたカルタ(繪も言葉(名詞)も考へて作られたそれだけに子供達にとつて親しみも深いものちしかつた)で遊んでゐる年長組の子供達、先生のまはりに集つて御本をよんでいたりしてゐる小さい人達、廊下で羽根をたいてゐる女の子、大きな積木で戦車建造中の男の子、お部屋の一隅のま／＼のごのお家でお客あそびに餘念のない一組、それ／＼に朝の一時をたのしんでゐる。一通り御案内いたゞいた後、自由に御覽下さいのお言葉で各自分れて拜見させていたゞく。私は二三の生徒と先づ花組のお部屋に伺ふ。こゝは遊戯室と兼用になつてなり廣さも他の室の二倍位ある。此の日は丁度この組の遊戯にあつてゐるので移動しないで済むが、他の組が遊戯の日はお道具をもつてその組へいつてお仕事をなさるので落着かないといふお話であつた。十人位(女の子)が多かつたが、コップにさした水仙を圍んで寫生してゐる。こゝは年長兒、さすがに觀察も細かく、色、形調のとれた立派な作品を仕上げてゐた。クレヨンには王様クレヨン十一色を選定してゐますが、此の頃は配給制

になつたので、手に入らない場合もあり已むを得ない時は自由選擇になつてゐますとのお話であつた。始まつたばかりだからとのことであつたがそのクレヨンは殆んど折れてゐない、丁寧に扱はれるのだらうと拜見した。また他の机では自由畫帳に男の子達が自由畫に餘念ない。こゝでは軍艦、飛行機、戦車等の活躍してゐる戰爭畫が多かつた。この頃先生がラジオのスイッチをお入れになる。午前十時、幼児の時間である。ラジオがよびかけると自由遊びの子供達はすぐ椅子を持つてしづかにラジオの前に集る。おまかきの子供はその席で靜かに聴く。それがラジオのはじまつた瞬間になされる。お話いきゝ入る子供達、その靜けさを亂さないやうにとしづかに室を出た。後に伺つたのであるが、ラジオを聴くことは入園當初からなされ、以前テキストのあつた頃はそれによつて聴取前の指導もなまつたことである。立派な聴取態度を養つていらつしやることに感心した次第であつた。鳥組ではお話が始まるころでうれしさに小さい椅子を先生の前に運んでゐた。伺ひたかつたがお邪魔になつてもと失禮する。後で子供におさせになつたところ、ジャックと豆の木のお話を殆ど終りまで立派になさつたと實習生の話であつた。人の前ではつきりと發表することの訓練は早くからしたいと思ふが、お話を通じてのそれは一つの結構な方法である。川の組ではお誕生會のお土産に、なざる千代紙と棒の手提をつくつていらつしやつた。誕生會といふのは、その月に誕生した幼児を、月末にお當番の組が招待して、先生方御手づくりのお菓子を一しよにいたゞき、お話、唱歌、お芝居等みせていたゞいたり亦自分達もしたりして、その組の幼児の

手になるお土産をいたゞいて楽しく一日を過す集りである。「招待のお手紙、幼児の書いた」をもらった人たちは前からその日をとても楽しみにしてゐます。お當番の組も工夫をこらし心をこめてその仕度を樂しみます。」とのお話。誠にさこそ心からうなづけ、承るだけで心のあたゝまる思ひがした。先生方のお慈しみの下に、祝はれるものも祝ふ子等も限らない幸福者といはなければならぬ。お友達にあげる製作に餘念のない子供達も本當に樂しうであつた。海の組、こゝではスキー人形の製作をしてをられる。それ／＼違ふ姿勢をしたスキー人形のお手本が一つ／＼つ机にあり、子供達は畫用紙に各自好みの姿の人形をかいてゐる。年長組だけにしつかりした線で色でスキー服から帽子、襟巻まで立派な潑刺たるお人形が出来る。スキーをかいてきりぬき、ヒゴを二本手に通して杖にし、糊でスキーをはかせると、嬉しうにスキー場につれてゆく。この仕上げは先生も手傳つてをられたが、大抵一人で出来るやうであつた。スキー場はお部屋の一隅、机、箱等で山をつくり白布をかけてある。もう大勢樂しうなお人形が、尻もちをついた愉快なもの交へて滑つてゐる。次々にスキー場が賑はつていつた。雪は子供達の冬の友達、スキーをした事のない東京の子供達にも充分よるこぼれる冬の誘導保育である。あの雪山がどんなに發展してゆか床しいことであつた。山の組にゆくと水仙の塗繪をしていらつしやるどころ、コップに白と黄の水仙がさしてあつた。「白い花は全部この一本に、黄色のはこの一本に咲いてゐるでせう。白と黄を一本にまぜて塗つてはいけませんよ。」と注意していらつしやつた。落ちついて丁寧に塗つてあ

る。クレヨンなので色鉛筆のやうに削る手間がいらぬ。よく廻つてそれ／＼適切な指導をしていらつしやつた。各室を拜見したのでまた花組にゆくと遊戯をしていらつしやるどころ、元氣に、上手にいろ／＼の遊戯をなさるのは拜見してゐても樂しかつた。終ると運動場へ出るお許しをいだゞいて鬼ごつこ戦争ごつこへと歡聲をあげて飛び出して行つた。寒い戸外で元氣に遊ぶ姿にみとれてゐるとお當番の方五六人が入つて来てお食事の仕度にかゝる。机をならべる人、お机の上を拭く人、一方ではお盆の仕度と可愛い、ゴム前掛をして、男兒も女兒も、實に樂しうに仕度してゐる。この間に外では體操があつたのであるが、お當番の働きに感心してゐる中に拜見せずじまつた。手を洗ひ、うがひをして席につく。子供達はコップを二つ持つて来てをり、一つにお湯を一つにはお味噌汁を入れていたゞく。味噌汁は十月から三月迄の間、給與なさるさうで、手すきのお母様方にお當番で手傳つていたゞくとのことであつた。

營養満點の上にお友達といたゞく樂しさが偏食をも矯正する、温い心のこめられた温いお汁である。樂しうなさゞめきの中にお仕度が出来ると先生が靜かな曲をお弾きになる。子供達は眼をさぢて靜かにきゝ入る。食事前の落着いた一時である。終つて前に立つてゐる二人のお當番が「兵隊さん有難うございます」の御挨拶をすると、樂しいお食事がはじまつた。私共も食事に應接室へ歸ると、何時の間にか各自のお辨當をあたゝめておいて下さり恐縮する。徳久先生と御一緒にあたゝかいお汁とお茶のおもてなしをいたゞいてお晝をしたしめる(今日のお味噌汁は葱のお汁)

美味しく頂戴した。食後、アルバム、夏の幼稚園の記録、麴町區の保育會誌等を拜見する。アルバムは保育終了の幼児の爲のもの、一同可愛い、寫眞にみとれてゐた。午後は遊戯室で全園兒と共に「ジャックと豆の木」の映畫をみせていた。徳久先生のお話にきゝ入りながら子供達と共に本當に楽しい一時であつた。終つて一しよに唱歌、ラジオで練習されたもの、ことよく揃つてきれいであつた。お歸りの時（一時半）になつたのでお椅子をもつて各部屋に引き上げすぐにお歸りとなる。靴箱のある出入口まで列になつて出てくると、混雑しないやう敷人づゝ送り出していらつしやる。

子供達が歸ると川の組のお部屋に席をつくつて下さり、お心のかもつたあたゝかいおもてなしに恐縮しつゝ、先生方を圍んでいろ／＼お話をした。はじめの參觀後一同の感想は、お子さん方

永田町幼稚園參觀記

お天陽様も冬の日に、にっこり笑つた日。永田町の靜かな学校の前に集りました。市電平河町の停留場よりじき、目の前にある。白薄緑の校舎は背い空にはえ一段と美しく又なごやかな、樂し相な學校に感じられた。日だまりで集るのを待つ間も幼兒達はお辨當をさげて賑込んでゆく。

玄關にゆくともう藤澤先生がにこ／＼と迎へて下さる。通された所は、私共十人餘が悠々と入れる應接間。ハブ茶の暖いのを御

からうけた明るいのび／＼した素直な感じを基としての感嘆の聲であつた。麴町區で選定なされた防空づきん、上級等の御説明、衛生方面の實行事項についての御話、毎年の學藝會の御苦心、その効果、園外保育のこと等有益なお話も伺ふことが出来、更に、間もなく卒業する實習科生への御言葉として就職後の心がまへについて温いお諭をいたゞいたこと等、先輩の先生方のあたゝかい御心につゝ、まれたたのしい一時であり、今後の勵みを覺える一時であつた。この時のことをもつと精しく述べるべきであるが紙面の都合で止むをえない。その後お人形芝居のお人形をみせていただき、更にスキー映畫をみせていたゞいて有意義なこの一日を過ぎていたゞいたことを感謝しつゝ、辭去したのであつた。こゝに改めて番町幼稚園の諸先生の御厚意に深く御禮申上げると共に、御言葉に甘へての思ひがけぬ長座をお詫び申上げる次第である。

上 遠 文 子

馳走になりつゝ藤澤先生の御話を伺ふ。藤澤先生は眼鏡をおかけになりその日は黒のスーツを御召しになつていらつしやり、私共みどり會の大先輩でいらつしやり此處の主任先生をしていらつしやいます。

永田町國民學校が竣工した折、町内人の希望により、國民學校の一隅を幼稚園に戴き此處に永田町幼稚園が始まつたわけであります。そのため何一つ幼稚園としての設備なく皆、國民學校の御

部屋を拜借していられる。

不自由ではあるが却々便利な事も大いにあるとの御話でした。組は年少組は川の組、年長組は山の組と二組で、先生が三人。最近希望幼児数が大變増加してきた相であります。

應接間を出て御部屋をみせていたゞ。體育堂、學校の體操場だ。片隅にピヤノが置いてあり、周圍には肋木があり、天井からは體育器具が種々さがつてゐる。幼稚園は週二回學校のあいてゐる時間に、御遊戯をする。此處まで長い廊下を、自分々々の椅子を持つてくるが、これも一つの訓練が出来るといつていらした。これらの運動器具も、幼児相當の程度において使用していられる。不自由ながらも便利との御言葉をうらやましく味ふ。

講堂、先づ、綺麗で立派なのに驚く。國民學校でも、これだけの設備の所はさうないといひ、すべてとゞのつたこの様子にびつくりしてしまふ。幼稚園も式の時は一階の席にすわるのだ相です。音樂室、日あたりのよい、二方が全部窓の明るい御部屋。椅子も机も國民學校には上等すぎる位の立派なものです。はーはーと感心して拜見してゐる中に時間のバルがなり國民學校の生徒さんが入つていらした。こんな氣持の好い御部屋で勉強が出来るといふ本當にうらやましくつた。

階段を上る。上ると屋上ではないが見晴のよい所がある。其處へゆくど左手には議事堂がくつきりと、右手の方は李王家の御殿に、赤坂離宮、が緑の森の蔭にみえ、前は閑院宮邸に、府立一中、お隣が大藏省。

すべて世の中の最高なる建物をあつめた様に、贅澤な程の選境

であります。隣家も相當なお家ばかりなので此處の生徒さんもしろいのですよと御話でした。

階段を下る、廊下をゆく。

衛生室、勿論國民學校のであるが、幼稚園も又同様に使用していられる。此處には專屬の衛生の先生がいらつしやり、生徒、幼兒の衛生保健を皆して下さる。右側にはレントゲン室左側に寢蓋と、廣い御部屋も衛生器具が一杯で、虚弱兒童の保護及び結核の豫防など手のとゞいたもので、一週に一度、幼兒達もレントゲンで寫真をとり、その状態をみ、同時に家庭にもそれをあげて連絡をとつてゐる。絶対に、生徒幼兒の體に結核など入る事なく、たとへ入つても早期発見のため決して體を損ふ事はないとおつしやつた。すべて衛生設備の整つたのを拜見致し、おどろくと共に、大切な日本の子供、少國民をあづかる我々共は先づ第一に考へる事は、この事ではないかしらと考へさせられました。

そこを出て廊下をゆく。これまでは國民學校の部屋であつたが、今度は、幼稚園である。玄關の兩側、たゞの上の高さ二米足らずの綺麗な木の戸棚が並んでゐて、しかもその上には、一輪差にカーネーションがさしてゐる。色は、黒色がつたニスでぬられ、戸扉の上には、馬とか花とかの切ぬきが張られてゐる。此處までお話すると皆さんは何が入つてゐると御想像なさるでせう。バスケツト入れかしら、コートかけかしらと御想像なさるでせう。が又、おどろいた事は、そいつと中を開けると可愛らしいお靴がすーつと竝んで入つておりました。どうしても下駄箱とはとても考へら

れず裝飾をかたこの御考案につくく見入つてしまひました。
その奥に保育室が背中合せに並んでゐる。年長組山の組を拜見する。この組は七十人程もいらつしやるがやはり御休みが多く、今日は三十人ちよつと位いらしい様だ。

ボンボン〜〜〜、ボン〜〜〜、ボン〜。黑板の片隅に取つけられた、木琴が鳴り出した。今まで夢中に遊んでゐた幼児は、いつの間にかこの美しい音色に姿勢を正し椅子の側にちやんと立つて宮城の方向に向つてゐる。木琴は鳴終つた。先生が前方に立たれて最敬禮。着席。

藤澤先生が手風琴を肩にお弾きになると皆は元氣よく歌ふ、申しおくれたが、この保育室は三方が窓になり、實に明るい感じの御部屋で、黑板にはたきびの繪がかゝれてゐてその下のお道具箱入れる引出しの上には製作品の材料がのせられてゐる。入口の片隅にはガラス戸棚があり、お人形さん又粘土製作品が飾つてゐる。こんな明るい氣持のよい御部屋で幼児達は、先生の伴奏で思ふ存分の聲を出してのどかに、樂し相に歌つてゐる。

ちやん〜〜、ちやん〜〜とハホト、ハヘイ、ロニト、と先生がお弾になるとハホトはお手た〜き、ハヘイは頭の上で拍手、ロニトはお膝をた〜く。パチ〜、ボン〜、パタ〜、お弾きになる音の見分けの鋭さ、又そのリズムのそろつてゐる事、實に見事で、その輕快なリズムを聞いてゐる私共まで心地よくなる程である。間違へる人は先づゐない。今度は、一人づゝ指名なさり、一度だけお弾きになる。ハヘイ、ホトハ、ハホト、ロニト、とぼん〜とどの音を弾かれても答へる。それも考へ〜云ふの

でなく即座に答へる様子をみるとすばらしい、聞いてゐる私など、何だらうと考へてゐる中に次の音、目を白、黒させてしまふ。

次に和音合唱、幼児達が伴奏にあわせて歌へば、先生がそれにアルトを和したりして一つの合唱をなさる。それがまた仲々綺麗で、これが幼稚園の生徒さんかしらと耳をいぶかる位である。誰も〜が歌はないのである人はゐなく、しかも樂しく楽しんでゐる様子をみる時本當にうらやましくなつてしまつた。それについて、音感を動的にし、汽車になり、ハホトの音が鳴つたら東京驛とか横濱驛とか、又唯の行進で音により、立止つたりしやがんだり、の訓練を拜見する。藤澤先生の御話にもございましたが、音感訓練は、市の方の研究として種々御研究なさり、去年はその發表もなさいました由、何程、訓練の上達、耳訓練の發達は、解らぬ私にも實におうちやましい限りで、如何に先生の御苦心が大變の事と存じました。その他にも和音笛などもお使ひなつたり種々御研究していらつしやいます。相當な長い時間この訓練を拜見致しましたがお子さん方がちつともあきる事なく却つて樂し相に、した。遊んでいられるのを拜見して本當によい勉強をさせていたゞきました。

その後、手技のお花屋さんを拜見し、もう時間にもなりましたのでお名残おしくも歸途につきました。設備よく又環境のよい此處の學校に學ぶ生徒、生活する幼児達の樂しさ、潑刺さを、うらやましくもあり、同時に自分達の反省もうながされた。よきなとどり惡しきを捨て、こそ參觀の價値があるのであらう。終りに自分の拙い文にて充分の事を記す事が出来なかつた事をおわび致し、種々御教へいたゞいた事を深く感謝致します。

野菜を作りませう

大 岩 金

一億國民ごぞつて戦時國策にそふべきこの昭和十八年こそ、私共にも出來ます丈の事は致したいものご、大いに張りきつて居ります。それにはなんごいつても、丈夫な體でなければなりません。達者なごでさへあれば、思ふやうに働けて、常に愉快にすごされます。

さて我田「水ながら、丈夫な體を作りませう爲に、國策にそふ食糧増産の爲に、又あるもので間に合はせる爲に、大いに家庭で野菜を作りませう。

それには先づこの二月におきまして左記の事をしておきませう。

一 地拵へ

1、深耕と精耕

日常りの好い所は勿論ですが、多少日蔭になる所も、みんな利用したいご思ひますので、野菜を作つても差支へない場所は、少しでも廣く耕しませう。既に冬耕を終わつて春の播種をお待ちの方もありませう。

秋作の收穫そのまゝになつてゐる所も、この度新しく菜園にする所も、出來る丈深く、(一尺以上)丁寧に耕します。諺に、「九耕無毛」ご申しますが、これは大根のやうな根菜類を作る時ばかりでなく、いづれの作物を栽培するにも大切なごであります。そして新しい所には、石、瓦片などがよく埋つてゐるものでありますから、それ等を取り出しておきます。

2、石灰を撒く。

土壤の殺菌消毒、中和、又間接肥料として、石灰を一坪につき、二合位の割合に耕した面全體に撒きます。

もし石灰がなければ木灰、これもすぐ間に合はなければ後で撒きませう。

そして耕した土の中に混入しておきます。

3、溝を作る。

平に耕された次には是に溝を作つておきます。深さはなるべく深い方がよいのであります。次の溝までの距離は深

さに依つて異なり、深ければ深い丈遠くなる筈であります。盛り上げた土が崩れ落ちない丈の間隔をこればよいのであります。狭い場所へ、彼處此處、點在させて耕した場合には、山高く盛り上げておいてもよいのであります。このやうに、凹凸をつけておきますと、日照、通風共によろしく、又霜柱なごも立ち易いので、その爲土中に潛在してゐる病を死滅させ、又粘土質の土壤は膨軟になるなご、この寒氣に耕耘は極めて大切であります。

3、基肥にして

日々出ますお糞所の屑物(野菜、魚、その他)塵埃なご出來次第溝の中に入れて、もし犬、猫なごに荒される心配のある時は、少し土を覆つておきます。又時には下肥、米のこぎ汁なごも屑物同様の溝に入れます。塵埃の中でも、容易に腐り難い、紙屑、木屑、その外燃えて灰になりさうな物は灰を作つて入れます。このやうに色々工夫して自給自足基肥を充分に入れて、土地を肥やして、三月の播種、植付を待ちませう。

二、今春の栽培豫定

家庭や、幼稚園、わけて目下の所は、なるべく作り易い物を選んで、出来る丈多收穫につこめませう。そして我が家の野菜はなるべく我が家で作ったもので間に合はせるやうに努力致しませう。

家庭栽培用の野菜を選定するに當りましては次の諸點を念頭におきたいと思ひます。

1、適材適所を選ぶこと

即ち屋敷廻りは、大方の場合日照のよい所を、さほごでない場所が有り勝ちなものであります。又地味におきましても、肥瘦様々であります。土質に就きましても、軽重色々であります。夫々に應じた種類を選ばなければ勢して甲斐のない事になります。

2、小野菜を主とすること

廣い面積の菜園は別として大體にはあまり大きくならない種類を多くこり入れた方がよいと思ひます。狭い畑に大きなものでは、直に畑を一杯に塞ぎ、外のものにも蔭を多くつくり易くなります。

3、少量宛ながら始終入用なもの、(例パセリ、二十日大根、シソ等)

4、栽培期間のあまり長くないものを選ぶこと。

5、收穫期間のなるべく長いものを選ぶ事狭い畑に幾日もくも同じ物の世話をして、その上やうやく收穫の時期に達しますや、その一時は大喜び致しましても一回にして既に收穫の終りを告げるやうなものでは家庭栽培用種としては、興味の薄らぎ易いものではないかと思ひます、毎日畑を見廻る毎に收穫の喜びの味はれるやうな比較的收穫期

間の長いものの方がよいと思ひます。

6、連作と輪作のこと

大方の野菜は連作を嫌ふものでありますが、家庭蔬菜園にありましては、なるべく連作して差支へないものを選ぶ方がよいと思ひます。止むなく休栽して輪栽にする場合でも、あまり長期の休栽を要するものをさける事に注意致します。しかし客土をいつて、他の土をとりかへる方法もあるのであります。このやうな點からも、栽培の間際になつて、あはてる事のないやうに、この寒い比較的暇な中に豫定を立て、おく事が必要であります。

左に野菜 日照、土質、休栽年限等との關係を喜田茂一郎氏著の蔬菜園藝要覽より轉載し御参考に供したいと思ひます、但し家庭栽培用に滴するものも考へましたものゝみを記す事に致しました。

一、日照との關係

- 2、強光線、即ち日照を好むもの 瓜類、豆類、結球類、芋類、茄科類、根菜類、玉蜀黍。
 - 2、半日蔭に耐もるもの 葉菜類、宿根類、里芋、蕒、甘露子、苺、百合類、葱類、(玉葱を除く)小野菜(早採牛蒡、葉人參、二十日大根、三葉、菠薐草、葉蕃椒等)。
 - 3、半日蔭を好むもの 蕒、蔕。
- 二、土質との關係

- 1、輕土に適するもの 根菜類、南瓜、トマト、玉葱、落花生。

- 2、重土に適するもの 宿根類、葱類(玉葱を除く)結球類、葉菜類、胡瓜、糸瓜、茄子、蕒、料理菊、豆類、百合類。

- 3、各種の土質に耐へるもの 馬鈴薯、豆類、玉蜀黍、蕒。
- 4、最も肥沃な土地を要するもの ○茄子、○蔕、蕒、結球白菜、胡瓜、○葱、○萵苣。

○印は殊に有機質堆肥の如きものを多く要するものを示す。

- 5、半瘠地に堪へるもの 豆類、南瓜、トマト、馬鈴薯、菊芋、玉蜀黍。

- 6、酸性に抵抗力の強いもの 二十日大根、玉蜀黍、百合。

- 7、酸性に抵抗力の稍々強いもの 大根、葱、トマト、里芋、蔕、三葉、蕒、南瓜、蕒、苺、苺。

- 8、酸性に抵抗力の稍々弱いもの 茄子、蠶豆、牛蒡、胡瓜、結球白菜、馬鈴薯。

- 9、酸性に抵抗力の最も弱いもの 菠薐草、玉葱、萵苣、豌豆、菜豆、大豆、小豆、人參、落花生。

日本の土質は概して酸性土壤が多く、又連作に依つても往々にして酸性土壤になり易いのであります。

國民學校體鍊科教授要項實施細目 (一)

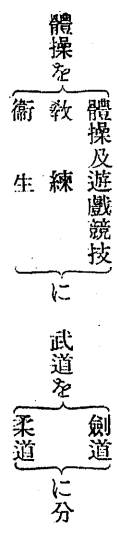
附屬幼稚園 古澤 靜子

今回文部省に於ては國民學校體鍊科の教授要項を新に制定して、去る九月二十九日附を以て通牒が發せられ、又教授要項の教材取扱に關し實施細目を決定して十月十日附を以て通牒が發せられた。

國民學校體鍊科の教授は爾今本教授要項に依り、地方の實情に適切な授業細目を定めて實施せしめるところとし、又本教授要項の教材の實施取扱に關しては、教授要項實施細目に準據して授業の適正を期せしむる様、發令されたのである。

新に制定せられた體鍊科の教授要項は、國民學校の精神、特に體鍊科の要旨に則り制定せられたのであつて、國民學校の體鍊科が、身體を鍛鍊し、精神を鍊磨して濶達なる心身を育成し、獻身奉公の實踐力に培ふことを目標としてゐるので、皇國民として其の使命達成上具備すべき必要なる基礎的能力を鍊磨育成して強靱なる體力、旺盛なる精神力

を備へ、皇國民として充分なる御奉公をなし得る人物の鍊成を主眼として制定されたのである。従つて實施すべき教材の選定に就いては右の趣旨に従ひ皇國民として具備すべき心身一體の能力を涵養せしむることを目標とし、之に適應する教材を選定せられた。即ち第一表を體操、第二表を



類されてゐる。

而して實施細目は各科目、各教材を通じ、且つ各學年毎に概ね其の目的、方法、鍊成目標並に進度、指導上の注意等に互つて非常に詳細な説明を加へてある。

次に舉げたものは、之等の精神に立脚してよく體鍊科の要旨を知悉し、之を充分把握したいとの立場より、初等科

第一學年の要目中より主な項目を拔萃したものである。

(一) 體操及び遊戯競技實施細目

一、姿勢

姿勢は左記事項に留意し之を指導すること

一、姿勢に於ては日常保持すべき正しき姿勢を體得せしめ全身の正常なる發達を保ち健康の維持増進を圖るに共に皇國民としての威容を整へ充實の氣力を涵養すること

二、立の姿勢は兩踵を一線上に揃へて著け、兩足尖は約六十度(女は稍、狭く)に開きて齊しく外に向け、兩膝を凝らす伸ばし、上體を正しく腰の上に落ち着け脊を伸ばし少しく前に傾け、兩肩を稍、後に引き一様に下げ、兩臂を自然に垂れ掌を股に接し、指は軽く伸ばして竝べ中指を概ね袴の縫目に當て、頸及び頭を眞直に保ち、口を閉じ眼を正しく開き前方を直視すること

三、坐の姿勢に於ては正坐の姿勢及び腰掛の姿勢に付指導すること

1、正坐の姿勢は兩足の拇指を重ね、兩膝の間を男は十糎乃至十五糎(三寸乃至五寸)とし、女はなるべく著け、上體を眞直にし、正しく腰を据え、兩手は股の上に置き、頭を眞直にし、口を閉じ、前方を正視することとし、適宜兩手は之を軽く組ましむるも可きすること

2、腰掛の姿勢はなるべく深く腰を掛け、兩足を揃へ、足尖を程よく開き、上體を正しく保ち、兩手は股の上に置き頭を眞直にし、口を閉じ、前方を正視することとし適宜兩手は之を軽く組ましむるも可きこと

四、歩の姿勢は立の姿勢に準じ上體竝に頭の姿勢を崩すことなく臂を自然に振り前方を正視して歩くこと

五、立の姿勢は教練の不動の姿勢の指導を、坐の姿勢は禮法要項の指導を、歩の姿勢は各種歩の指導を關聯して機に臨み之を指導すること

六、姿勢は低學年に於ては自然的に行はしめ學年の進むに従ひ漸次要領の正確を期せしむること

七、姿勢に於ては矯正に留意し體鍊實施中常に正しき姿勢を保持せしむるに力むること共に特に訓練の効果を日常生活に於て具現せしむるやう指導すること

一、呼吸

一、深呼吸

深呼吸は左記事項に留意し之を指導すること

1、深呼吸は呼吸機能を高め、精神を鎮靜せしむる爲呼吸の安靜時を選び適宜實施せしむること

2、深呼吸は清淨なる空氣の下に於て行はしむること

3、深呼吸は掌を外に反へしつゝ胸を反らし深く吸氣し掌及胸を元に復しつゝ十分呼氣する等の方法に依り胸式深

呼吸を行はしむるを本體とするこゝ

4、高學年に於ては吸氣時に下腹部を伸張し呼氣時に緊縮する方法に依り適宜腹式深呼吸を行はしむるも妨げざるこゝ

二、呼吸調整

呼吸調整は左記事項を留意し之を指導するこゝ

1、呼吸調整は切迫せる呼吸を正常に復せしむる爲必要に應じ實施せしむるこゝ

2、呼吸調整は特に呼吸の切迫甚しき場合に於て足踏其の他簡易なる運動を實施せしめ又は掌を外に反へしつゝ胸を反らし吸氣し掌及び胸を元に復しつゝ呼氣する等の方法に依りて指導するこゝ

一、徒手體操

科	等	初	運 動	目 的
5、體の前屈	4、體の側屈	3、胸の後屈	1、脚の屈伸 2、臂の廻旋 3、胸の後屈	脚筋を發達せしめ脚の關節を柔軟ならしむ 肩の關節を柔軟ならしむ 胸椎を伸ばし胸廓を擴張し姿勢を正さしむ 體側諸筋を發達せしめ内臟諸器官の機能を増進せしむ 脊筋を發達せしめ内臟諸器官の機能を増進せしむ

年	學	一	第
12、胸の後反	11、脚の屈伸	10、臂脚の屈伸	9、體の前後屈
8、脚の前舉	7、體の側轉	6、體の後屈	
<p>腹の諸筋を發達せしめ内臟諸器官の機能を増進せしむ 體側及腹背の諸筋を發達せしめ内臟諸器官の機能を増進せしむ 脚筋を發達せしめ股關節を柔軟ならしむると共に體の伸展をはかる 腹背の諸筋を發達せしめ内臟諸器官の機能を増進せしむ 全身を伸展せしむ 脚筋を練ると共に全身を調整せしむ 呼吸を整へ姿勢を正さしむ</p>			

一、歩 走

科	等	初	運 動	方 法	目 的
廻 競 走	各 種 走	各 種 走	足 踏	踏足尖を前に向け速歩足踏及蹠歩足踏をなし適宜股を高く舉ぐ	歩走の基礎的修練をなす
				二、歩調をとりて歩く	各種の歩き方に依り歩行力を練り團體行進に習熟せしむると共に規律協同の精神を養ふ
				三、急ぎて歩く	
				四、壘上を歩く	
				一、姿勢を正し自然に走る	各種の走り方に依り走力を強め動作を輕捷にし快活持久の精神を養ふ
				二、疾く走る	
				一、出發線より適當の距離に立てたる小旗を走りて廻はり來る	走力を強むると共に動作を敏捷にし快活の精神を養ふ
				二、適當なる大きさの走圈を廻はり來る	

年 學 一 第	
鬼遊	一、一人鬼 二、子殖し鬼 三、片手鬼 四、手繋ぎ鬼
球列競走	一、一人にて數個の球を持ちて走り示されたる通りに球を列へる 二、一人一個宛順次に球を運びて示される組の全員が同時に走り示されたる形に球を並べる
活なる精神を養ふ	走力を強むると共に動作を機敏正確ならしめ快活協同の精神を養ふ

一、跳躍

科 等 初	
片脚跳	一、其の場にて連續して跳ぶ 二、各方に適當の距離を跳び續く
兩脚跳	一、兩足を揃へ又は開閉し其の場にて跳ぶ 二、各方に適當の距離を跳び續く 三、開閉脚にて適當の距離を跳び續く
跳下	適宜の高さの臺上より躍み或は立ちたるまゝ跳下る
兔跳	兩手兩脚にて兔の如く適當の距離を跳ぶ
運動	目的
片脚跳	跳力を練ると共に身體の支配力を高め快活なる精神を養ふ
兩脚跳	跳力を練ると共に身體の支配力を高め快活なる精神を養ふ
跳下	跳力を練り身體の支配力を高め自信力を養ふ
兔跳	跳力を練ると共に身體の支配力を高め快活なる精神を養ふ

年 學 一 第	
高跳	横に展られたる紐を助走し片脚にて踏切り反對脚より跳び越す
幅跳	小川に擬して地上に描きたる適當なる幅の二線を跳び越す
拳跳	拳に勝ちたる者が定められたる歩數だけ大股にて跳びこれを連續して行ひ所定の距離を跳ぶ
繩跳	揺られつゝある繩を片脚又は兩脚にて跳ぶ
精神を養ふ	跳力を強むると共に身體の支配力を高め快活なる精神を養ふ
右に同じ	繩を跳ぶ動作に慣れしめ快活なる精神を養ふ

一、懸垂

年 學 一 第 科 等 初	
棒登	手足を用ひて自由に登降す
鐵棒遊	一、懸垂して後振る 二、振りて後下りる 三、跳上る 四、攀ち登る 五、後へ下りる 六、前へ廻はりて下りる
運動	目的
棒登	攀登力を養ひ胸廓の發育を促す
鐵棒遊	懸垂力を強め身體の支配力を養ふ

一、投擲

科 等 初	
球投	遠くへ球を投ぐ
運動	目的
球投	遠くへ投ぐる能力を養ふ

第一學年	源平球入	二組に分れ各組約二米五〇厘の高さの籠に球を投げ入れる	正確に投げる能力と規律を守る習慣を養ふ
------	------	----------------------------	---------------------

一、格力

初等科第一學年	運動	押合	目的
引合	方法	目的	
網引 二組に分れ綱を持ちて互に引合ふ	一、押出。適當の圓を地上に描きその中に全兒童が入り圓外に押出し合ふ。 二、押合。全兒童が中心に向ひて押合ふ。 三、棒押。二組に分れ横隊にて向合ひ一本の棒を押合ふ。	押す力を強むると共に忍耐協同の精神を養ふ	

一、轉廻及倒立

初等科第一學年	運動	方法	目的
前轉	方法	目的	
二、立ちたるまゝ手を足元全身の支配力を高む	二、に著きて前へ轉廻す	二、歩み來り手を著きて前へ轉廻す	

一、球技

運動	方法	目的
順送球	一、横又は縦に並び球を順次手渡し送る。 二、波して送る。 三、相對し球を隔て一列横隊にて相對し球を持ちて走り順次向側に手渡す。	球を受渡す初歩の動作に慣れしめ協同の精神を養ふ
投捕球	一、〇米隔て二人相對し球を真直に轉はし合ふ。	右の他、注意を集中する習慣を養ふ

一、音樂遊戲

初等科第一學年	運動	目的	娯
ガクカウ	團體動作に慣れしむると共に快活なる心情を養ふ	友達的好嫌ひをせざること	
ヒノマル	團體動作に慣れしむると共に清く明るき心情を養ふ	落着きて動作をなすこと	
オウマ	輕快なる動作により快活なる心情を養ふ	仲よく行ふこと	
ハトポツ	輕快なる動作により快活なる心情を養ふ	素直にすること	
ポ	走力を練り勇壯活潑なる精神を養ふ	元氣よく行ふこと	
ヘイタ			
イゴツコ			

皇國民的性格の啓培を目標せる 保育の實際

新潟縣長岡女師附屬幼稚園保姆

桑原きよみ

一、國民學校令の根本精神と幼児保育

日本の國體の本義に基き、皇道精神を發揚せんとするは、教育系統全體を一貫する根本原理であると思ひます。高度國防國家を擔ふて臣道の實踐を完からしめるには、幼少なる時代の薰陶保育が最、大切であり、この意味からして幼稚園保育の重要さが痛感されるのであります。昨年より實施せられた國民學校令の根本精神は、單に國民學校にのみ通ずる斷片的なものではなく、上は大學より下は幼稚園までの教育系統に適用され、流通する、謂はゞ國民教養の中核をなすものであると考へます。しかも幼児保育は、其中核的な國民學校教育に直ちに連續するものであり、其の重要なる基礎であるをすれば、幼兒期の保育の重大さが深く認識されるのであります。私達は國民學校令の根本理念を把握して、それに基き保育をなさねばならぬと思ひます。

現在の幼稚園令が發布されたのが大正十五年四月であり

ますから、幼稚園令も亦改められるべき時期に到達してゐるのでありますが、附屬幼稚園では幼稚園令の改められるまで次の様な保育の方針を樹てそれに基づいて日々の保育を行つてゐるのであります。

二、保育の方針

- 1、保育全般に亘りて皇國の道を得せしめ特に國體に對する信念を厚ふし皇國民たるの歡喜に浸らしむること。
- 2、敬神崇祖の念を培養し滅私奉公の氣風に向ふべき素地に培ふこと。
- 3、我が國特有の文化に親しみ東亞世界の情勢に關心を持たしめ皇國の地位と使命とを感ぜしむること。
- 4、幼兒の保健に留意し健全なる身體の育成に努むること。
- 5、大自然の惠澤に浴せしめ之に對する興味を喚起し觀察力を養ふと共に科學的精神の萌芽を啓培すること。

- 6、幼児の個性及び發達段階に應じて天賦の智能啓培並に之が誘導に努むるに共に工夫創造の萌芽を養ふこと。
- 7、心身を一體として保育し特に躰を重んじ情操を醇化して將來皇國民としての圓滿なる人格の素地育成に努むる事。
- 8、日常保育は各保育項目の聯關を圖り幼児の生活に即して具體的實踐的ならしめ特に禮法儀式行事を重んずる事。
- 9、團體訓練を重んじ共同的精神を養ふと共に大國民的態度の養成に努むること。
- 10、家庭との連絡を密にし之が指導改善につこめ以て幼児保育の完全を期すること。(東京市保育の研究參考)

三、幼兒觀

茲で考へなければならぬ事は、幼兒期の子供は未だ心身共に幼弱であつて時々刻々に旺盛なる發育をなしつゝあるものであるから、幼兒期本來の育て方を、誤らぬ様に注意しなければならぬこと云ふ事であります。幼兒期に少年期との混同や誤認を戒むべきは勿論、憚つたり、無理な要求をしたり、幼稚園の効果を直ちに認めしめんとするやうな不自然な保育に陥らぬやうに注意しなければならぬと思ひます。

文部省圖書監修官竹下直之氏は國民科修身ヨイコードモ編

纂趣旨の中に、兒童觀に次の三通りあること云つて居られます。

(1) 子供を小さな成人として考へ 觀方

これは兒童の生活、兒童の實踐行爲を云ふ點で影が薄いからいけないこと云つて居られます。即ち子供に期待し、子供に要求する事が多い時は、子供を大人の世界に引上げやうとし、大人の尺度から「あゝでもない。かうでもない」。子供をせきたて、いためつけたりしますが、かうした成人の生活にあてはめることは、子供の子供らしい生活を無視する事になり易く、子供はいぢけた姿になつてしまひます。

(2) 子供は成人とは全然異つた世界に住むものであること考へ 觀方であつて、これは自由主義的な子供觀であつていけないこと述べて居られます。即ち從來子供をみる人の中には「子供は天真爛漫である。子供の生活は實に天國のやうに美しい。出来るだけ成人が手を觸れない方が立派な人間となる」。云ふ考へ方をして來た人が少くありません。かゝる考へ方からすれば、放任主義となり、自分のやり度い事は他人の迷惑になつてもよいこと云ふ様な事になります。そこで「ヨイコードモ」のこの兒童觀は、

(3) 「子供は子供として成人と異つた世界に住むが併し將來は、日本の中堅國民となるべきものである」。云ふ觀

方に立つべきであり、この兒童觀によつて、飽くまで羨ける云ふ建前がこられなければならぬ。

こ述べて居られます。幼兒も亦この考へのもこで羨けられなければならぬを考へて日々の保育をなしてゐる次第であります。

四、皇國民的性格の啓培

1、環境の整理

2、祝祭日の儀式重視

3、社會的行事、年中行事、神社の祭日等の中に國家的國民的精神を交流せしめる。

4、時局を幼稚園内に反映せしめる。

從來の幼稚園は専ら子供の興味に投じ、如何にして無理のない保育を施し心身を發育せしめるか、如何にして子供らしく取扱ふか、云ふ保育の方法技術に關する事にのみ意をそゞぎ、魂の啓培云ふ事にまでは至つてゐなかつた傾向があつたのではないでせうか。そこには現下の息づまる様な國家的國民的感情が滲透せず、唯幼兒達の楽しい別世界のみが求められてゐたやうです。例へば歌詞の内容にしましても古くからある童歌は別しまして、何の事か譯のわからぬ氣分本位のものであつたり、鑑賞畫も畫中の人物が日本の子供か西洋の子供か區別の出來ぬものもありまゝです。又桃の節句、端午の節句、お月見等色々な飾り物をし

て傳統的な氣分に浸りつゝ楽しい一日を過す事はまことに美しい事ではありますが、其の傳統的なものが現在の生活との間に精神的交流を缺いてゐないでせうか。

以上の點は、現時の教育改革の根本方針に基いて再検討し、不知不識の間に幼兒の生活を總て皇國の道に歸一せしめ、皇國民民としての基礎的啓培を行ひ得るものに改めなければならぬと思ひます。之が爲には園内に一つの精神的中心がなければならぬを考へますが、今日の幼稚園では御眞影も勅語も奉戴を許されませぬので、私共の園では、皇太神宮の大麻奉齋殿を設けて、之を保育の中心と致して居ります。そして朝夕拜せしめ、皇祖の大御稜威の下に、國家的國民的題材を適當に統合し、幼兒の生活の中に生かして行き度いと思ふのであります。

又國家的祝日の儀式の際には師範學校の講堂で嚴肅な雰囲気になりつゝ御影を奉拜し、直ちに園に歸つて其の嚴肅な氣分の壞れぬうちに、儀式の由因を幼兒にわかる様に話してきかせたり、面白い中にも國體の尊さも知られる神話等いたしました。

昔大楠公の大精神が幼い小楠公の童心に培はれて行つた事を想ひ起す時、戦線銃後に於ける國民の實感や體驗を幼稚園にも導入して、幼兒の童心に盡忠報國の精神を啓培したいと思ひます。皇軍の奮戦狀況を知らせる爲に保育室の

壁面に大東亞戰局地圖に幼兒の喜ぶ飛行機、日の丸の旗等を書込んで飾り、又附屬國民學校の映寫會には、幼兒も一緒に見せてもらつたりして居ります。幼兒に對しては、知識として教へても理解出來ぬものが多いのでありまして、すべて經驗を経なければなりません。そこで時には赤十字病院へ傷病兵慰問に行きます。各自の製作品を持ち、歌や遊戲を御覽に入れて喜んでいただくのですが、かうした事が回数を重ねる度に極立つて良くなる子供が出ます事をうれしく思つて居ります。

5、躰の重視

子供が立派な成人になり國家を擔うて立つには、子供の時から育てられ、訓練され、鍊へられなければなりません。子供が生れてから數年の間が人間としての性格を作るに力強い働を持つ時期なのでありまして、三つ子の魂百までと言はれてゐる如く、成人になつても立派な性格を持つか、歪んだ性格を持つかの區別は、既に國民學校入學前の幼兒期に於ける育ちによつてきまつてゐる云つてもよいのであります。幼兒期は實に性格の基礎工事の時期なのであります。この大切な時期を家庭或は幼稚園の手にゆだねられるとすれば、家庭或は幼稚園は子供の修鍊の道場である云はねばなりません。そして其の方法はあくまで遊びを通して行はねばならぬと思ひます。

將來興亞の大業を負うて立つべき實質剛健、強固な意志と自信をもつて、萬難を排除して邁進する如き性格を持つ第二國民を得る爲には、幼少の頃から自然本能に對する無意味な抑壓を避けて、内面から溢れ出づるも、謂はゞ衝動的な生命の根源力までも云ふべきものゝ旺盛な發動を促がすことは性格構成上必要な事と存じます。躰といふ美名にかくれて、さかく成人の立場から、幼兒の日常にまで干渉し、「靜かにしてゐなさい。泥いぢりしたり相撲をこつたりして著物を汚してはなりません。」とか云つて、なるべく室内に靜かに繪本を見たり、繪を書いたりするやうにしむけ、早熟な意志薄弱の子供をつくつてはならないと思ひます。私共の幼稚園では、出来るだけ積極的に友達同志で嬉戲せしめ、樹上へ登つても、泥いぢりしても、組打をしてあまり干渉せずに逞しく旺盛に遊ばせ、さうする事によつて豊かな生命力の活動を促し、如何なる困難にも耐へ得る強き意志を鍊へて居ります。細かい事に干渉せず逞しく遊ばせてこそ、幼兒持前の筋肉力、神経力が自然に發育しそこに生命は本來の姿を生々息むこまなく展開させ、正氣に満ちた氣質性格が自然に歪められずに伸びる事が出来ると思へます。最近私共の幼稚園では、衣服の汚れを氣にしないで講習いたしましたして、廢物利用を兼ねる事に致しました。

私共はこの様にして幼児の自然の傾向に對して、徒らなる抑壓を避け、生命の豊かな發動を希つてゐます。然しこの事は、一切の自然傾向を其のまゝ是認する事ではありません。幼兒は純眞ではありませんが幼兒の一切の自然的欲求をそのまゝ伸すことは、必ずしも完全なる皇國民への道ではありません。

子供は、面白かつた、賞められてよかつた云ふ事を善し考へ、叱られた、怒られた云ふ事を惡し考へ、これによつて善惡をおぼろに理解してゆくのでありますから、私共の幼稚園では、しなければならぬこと、してはならぬ事の數を少く制限いたしました。それだけは徹底的にやらせ、我儘は決して許さず、依頼心を除く様に努めてゐます。遊び道具の後仕末は例外なくみんながやらねばなりません。晝食後の机上床の清掃等は當番の者が責任を持つてやります。朝會の際、不眞面目の者は何回でもやり直しをさせます。かくする事により、自から制する意志の働が培はれ、素直に命令に服従する習慣もつき、又自信もつくと思ひます。

五、健全なる身體の育成

高度國防國家建設の第一條件は、實に國民の健全なる身體の育成である事は今更申上げるまでもない事と思ひます。健全なる身體の育成は幼兒期に於て最も注意を要する

こと考へます。幼少であればある程、身體の育成に細心なる注意を必要とする事は、當然であります。幼兒の生活は遊びを主體とします。遊びの生活は心身一體の生活でありま

六、結び

幼稚園の保育の本質は、唱歌、遊戲、其の他の知識を、母親のまごにゐる時よりも、もつと計畫的に、合理的に教へる事にあるのでなく、眞の皇國民としての性格啓培に努めることでもあります。何よりも日本人である事の意識を持たせ、日本人としてのよろこびを感じさせる事、國家が何を要求してゐるかに眼をそゝいで保育の目標を明かにし、しかも我が手にある幼兒については、温かい愛をもつて靜かに之を眺め、子供の直接觸れる事柄に就いて幼兒は幼兒なりに實踐的に訓へ導き、練へて行かねばなりません。しかも幼稚園だけに限られる事なく、家庭と連絡して、幼兒の毎日の生活に於て辛苦に耐へて目的を果す強い意志を練へられる様に、又子供達相互の社會生活に於て、國家への協同奉公の精神を深く身に浸みるやうに鍛鍊されなくてはならぬと思ひます。

親の感想

伸びゆく我が兒

私は長女、長男共に東京女子高等師範學校附屬幼稚園の
恵れたる保育を受けてゐる仕合者で、この度長女は幸運に
も同附屬國民學校へ入學を許されたる重ねの果報者で
ある。この機に同幼稚園にて温きはぐくみの中にのびて行
く二人の我が子の姿につき二三記し度いと思ふ。

生活の秩序化

「頑是無いさいふ言葉通りの我が兒、親の自分からはご
うやら格好がついてゐるやうにと思つてはゐるものの、他
人様からは全く他愛もない赤ん坊にしか見えないであらう
その我が子に、入園後暫くしてなんさなく「生活の秩序化」
が感ぜられ、就寢前の「おやすみなさい」も、ぐつつた晩以
外は大抵かゝさず、親の自分が先づ幼稚園に感謝させられ
た。

食前の偈

「兵隊さん有難うございます。戴きます」、私もつれ込
まれて一緒にお辭儀をして箸を採る。幼稚園の日々の躰によ
り皇軍に感謝しつつ、天恵を戴く子供の姿をジツト見入る
私は、合掌したくなる程の有難さを感じる。この幼児期か
ら皇恩神徳に限りなき感謝を捧げる尊い心持を植ゑつけて
戴くことの有難さ。私も子供のこだらぬ純一さに勢づけ
られ、食前の偈、食後の偈を唱へて戴く。もう子供に教へ
られてゐる。

言葉の洗練

語彙は豊富になり、言葉遣は段々巧になる。入園後半歳
位になるに驚く程言語生活が洗練され、表現、言廻しな
著しき進境を示す。田舎生れの私は子供の東京語の自然さ

にかなはなくなる。

心の豊かさ

幼稚園日々のお話・手工・圖畫・唱歌・遊戲・運動等を通しての保育薫化は、子供の精神の啓培向上に大きな力を及ぼし、新しい知識の累増は勿論のこと、ものゝ觀察の仕方、更に感得力をも加つた如くに見え、知の量の増加に止らず、複雑さ・能動性を持ち、精神生活の充實展開が種々の事象に現はれ、なんさなく心の豊かさを加へて来る。

お繪描き

「お繪描きが大好き」長女は、自己の趣味を語るやうになる。何んでも好んで描くが、殊に人形・お家・御菓子・海や山等の繪が多く、夏の家濱生活や時たまの汽車旅行は半年間位題材となる。日曜などは母の制止もきかず半日位描き耽つてゐる。女兒だけに一般に優しい畫材を優しい畫因で描く。幼稚園に入つてから、ぐつこ上手になり、自分も幼稚園での習作を私に見せるやうになる。

長男の方は長女には及ばない。然し自ら獨自性をもつてゐて、軍艦・飛行機・汽車・自動車等の乗物が多く、それが段々變つて、是等の乗物の動いてゐるところを描き、次にはこの動的のものを更に綜合して、海面には軍艦か白波を蹴立て、進み、その上空では飛機の空中戦が行はれてゐるところを描き、爆彈破裂の情景迄描く、最も個々の繪は餘

りうまくはないが、綜合的の表現形式を採るやうになる。爆彈の破裂なごうすぎたなく描く。

飛翔中の飛行機なご極めて簡單に描くが感じは出でる。市電が車庫に入つてゐる光景が餘程印象的だつたを見て繰返し描く。線路が數本に分岐し、架空線が入り亂れ、ヘッドライトが頭を並べ、薄明りのする屋根の感じ等を含め大膽にあつさり描く。繪の拙い私なご一寸手を出し兼ねるやうな車庫に並んでゐる電車をこごもなく描く。入園前は描いたものの説明をきかぬご分らなかつたのが一年も経たぬ中になんごか纏つた構圖になる。

師

「私の先生は菊池先生」

「僕の先生は清水先生」

こごは、兩人の片言雙言の中に迄浸み出でゐる。師に對する絶對の尊敬・無限の信頼を把持し居るこごを知つて、この子供はなんて仕合者だらうごつくご思ふ。私は滅多に送り迎へなごしないが、時に都合のつくごときには、子供が珍しがらまごに行く。

丁度迎へに行つたごの事、待つてゐるご菊池先生の後に元氣な園兒達について出て來た。子供は順々に引渡される。私の小さい長女は先生の脇の下から、まるで親鶏の羽

の下から顔を出す雛のやうに出て来た。「庇護」の語をまざまざと形の上で見た。

弟への影響

四歳の次男「僕幼稚園に行くの」

三、長女・長男の幼稚園生活が強く影響し、唱歌やお繪書きのまねを始め、この次男の生活の上に長女・長男の幼稚園

或る日の幼稚園

前田善子

幼い子の手をひいて、親のみが味ひ得る悦びに胸をさきめかせつつ、幼稚園の入園式に臨ませていただきましたのも、未だ昨日の事のやうに思はれます。

二年の歲月は流れ去つて、——これもすれば母親のふところを戀しがつた幼いものたちも、今は、それ／＼望みの國民學校に各自の全力を擧げて突進して行く、たくましい子供達になりました。

よくぞこのやうに育てあげて下さいましたものぞ、驚嘆し、かつは隨喜し　唯々先生方の御恩を感謝申上げるばかりでございます。

生活が大きく反映して來てゐる。特に面白いことは、夕食後學藝會を稱して、長女・長男が交替で唱歌を歌ふに、次男もよろ／＼出て來て、自分でお辭儀をし乍ら、拍手し、たゞ／＼しく歌ひ終るに又お辭儀を拍手を一人ですまし嬉々として喜ぶ。幼稚園の生活は我が家の團樂にまで及ぶ。

(昭和十八年二月九日)

我々は、空氣や日光の有難さを、毎日意識しながら暮してをりませうか？その恩恵が餘りに大きすぎますので、私にござりまして、幼稚園は意識の對照はならなかつたのでござります。何か幼稚園に對しまして、批判の餘地があるさういふのでしたら、それが私共の意識の中に浮び上つて來る筈でございます。唯、満足の他にないものもない場合、もつたない事ながら、大恩になれきつて、その儘に日々をすごしてまゐりました。

例さしては、いささか當を得てをらないかも知れませんが、或る方が「健康は、自分の體内に何の所在も意識され

ない状態である。こ仰有いましたのを、非常に興味深いお言葉。伺ひましたが、私の幼稚園に對しましての感じも、まさにこれと同様でございます。

子供をめぐつて、幼稚園と家庭とが、しつくり結合されてをります爲、又幼稚園の教育がまここにお立派で、間然する處がない爲、却つて、この大いなる存在は、私共の自己の生活の内に融合されて、最も自然な状態として「あるままにある存在」にしか、考へられない迄になつてしまつてをります。

私などは「うちの子供は、今幼稚園に居る」を思ひます時はじめて、子供に對して何の懸念も心配もなく、安心しきつて、自身の務めに勵む事が出來たのでございます。

幼稚園への、絶對の信頼と感謝とは、餘りにもその思ひが深すぎますので、私には感想などいふ程度の氣持では、到底何も申上げられません。

唯、私は「或る日の幼稚園」にして、かつての日、参上いたしました折の、印象深く感じました一情景を、思ひ出します儘に、それをここに書かせていただき度く存じます。

○ ○ ○

爽やかな、夏の或る日、私は幼稚園を訪問いたしました。いつものお部屋へ伺ひましたが、がらんとして人影一つ見えませんでしたので、不審に思ひ乍ら、お庭へ降りる階段

の戸口までまゐりました。

するに、私は思はず「まあ！」と感嘆の聲を發して、目前に展開された光景に目をみはつたのでございます。

涼しい木かげに、机や椅子が持ち出され、先生のまわりに集まつて、繪を描く子、手工細工をする子、マゴト遊びをする子……ブランコ、オスベリ、砂遊びも、それらの遊びに全く餘念ない有様でございました。青葉のお庭に、色紙をまき散らしたやうに、色とりどりの洋服姿の子供達が、あちらこちら蝶か小鳥のやうに、嬉々として飛び廻つてをりました。

空は限りもなく澄み渡り、燦々ときらめく太陽の光は、丈夫さうな、赤い小さな頬を照し、涼風は可愛らしいおかつばさんのやはらかな髪の毛を、撫でるやうに吹いてゆきました。

この美しい園のうちには、平和と、豊かな愛とが満ちあふれてをりました。

私は「平和」とも「樂園」とも題すべき、如何なる巨匠の筆も及ばぬ、この目前の名畫に、我を忘れて、しばし、うつろひを見せられてをりました。

受持の先生は、砂場でせつせ何かつくつてゐる小さな人達をおゆびさしになつて、「この人達は、今トーチカを防空壕を造るので夢中ですよ」と私をふりかへつて、微笑なさ

いました。

なる程、お砂の山ご見えましたのはトーチカ。トンネルのやうな形は防空壕でございました。子供達は小さな手で、一生懸命に、わきめもふらずに造つてをります。子供としては、この一塊の砂に、彼等の魂をこめて、眞實のトーチカや、眞實の防空壕を建設しやうものご意氣ごんでゐるのでございます。

男の子達は、未來の丈夫マストラとしての氣魄を眉宇に漲らせて、築城に全能力を發揮いたしてをります。女の子達は、銃後を守るべき婦人として、防空壕の方を引うけてをるらしいでございます。

先程、感動いたしました「平和な樂園」としての幼稚園は、更に大きな意義を私に顯示してくださいました。

あまねき大君のおめぐみに浴し、南に北に戦つてをられる將兵達に護られ、先生方の親にも勝るお情に温められて、次の時代を脊負ひ立つべき國民の、苗床ごもいふべき幼稚園で、毎日すく／＼ご生ひ育つて行く子供達の幸福——日本の子供の幸福——さいふ事を沁々ご感じさせていたたたきたまし。

小さな子供達を、おあづかり下さいます先生方の、片時も御心やすまる時なく、如何にして、この子供達を、將來立派な國民ごなるやう育てるべきか、又如何にして、空襲

その他の災害から擁護すべきか、日夜御苦心遊ばしていらつしやるお心によつてこそ、はじめて、あの平和な樂園氣は醸し出されたものであるご悟るごことが出来ました。

戦時下にあつて、童心をおびやかすごことなく、日本人として、大君の御爲に、正しく、直く、強く生きる事を教へ示してをられる、幼稚園の悠々迫らぬ、あの平和な光景は、唯一重に、先生方のたゆみなき大いなる御努力の賜である事を痛感いたしました。

改めて、先生方に厚く御禮を申し上げます。

子供達は、この四月に國民學校へ入學させて戴く事になりました。もう、なつかしい幼稚園ごもお別れ申上げなければなりません。併し、子供達の一生を通じて、最も美しい、楽しい思ひ出として、この二年間の幼稚園生活の記憶は、終生彼等の腦裏から消え去る事は、ごさいませまい。そして、いつまでも先生方を、お懐しくお慕ひ申上げる事でございます。

この小さな人達にも、やがては、社會の各方面に送り出される日が、訪れて参りませう。

きはみなき皇恩に報い奉るべく、師の恩、社會の恩を心に銘記して、一日も早く、お國のお役に立つ有爲な人になる事が出来ませう、ひたすら念願いたしをります。

兒童心理學 (第十二講)

牛 島 義 友

習癖其他

神經質的習癖 子供には色々な癖がある、指を吸つたり、爪を嚙んだり色々な癖がある。斯かる體の或部分をいぢる癖は普通考へられる如く神經質の子供にのみ現れるものではなく、殆んゞ凡ての子供に現れてゐる。オルソンは一年から六年までの四六七名の子供に就いて調べたところ、唯一人の子供だけが無いだけで他の子供には何等かの癖が見られた。其種類を數へてみるに次の様なものがある。

- 1、口に關したるもの 指を吸ふ、爪をかむ、舌を出す。
- 2 鼻 鼻をほじくる、搔く、皺をよせる。
- 3、手 指をかく、手を振じる、拳を握ぎる。
- 4、毛髮 髪をいぢつたり、編む、頭を搔く。
- 5、耳 耳をいぢつたり、ほじくる。
- 6、刺戟的 體を搔く。
- 7、眼 目をこする、まばたきする。

8、性器 性器をいぢる、股をこする。
9、顔 顔をしかめる、顔筋をびくびく動かす。
以上の様な様々な癖が見られるが、其現れる割合は次の如くなる。

- | | |
|----------|-----|
| 口に關するもの | 五四% |
| 鼻に關するもの | 二八% |
| 毛髮に關するもの | 二三% |
| 目に關するもの | 一五% |
| 耳に關するもの | 一〇% |
| 性器に關するもの | 四% |
- 尚ほ斯かる數は年をこるに減少する譯でなく、又女兒の方が男兒より多い。斯かる原因としては親の素質、模倣、疲勞、榮養狀態等が考へられると言つてゐる。以上の中主な癖二三について詳しく述べよう。
- 指を吸ふ癖 乳兒が指を吸ふのは一般現象で、生理的な

ものであると言ふ人もある。併し之は乳をのませる遣り方にも關係する。乳をのむ前は子供は空腹のため緊張してゐるが、のむ事によつて弛緩し、充分のんでしまふさつかり弛緩して眠つてしまふ譯である。併し體の調子や感情状態や牛乳の状態が悪くて、腹一ぱいのまなかつた場合には指を吸ふ様になる。これは眠つた後でも尙ほ吸ひ續ける事がある。斯かる經驗が重なるに遂に習癖になつてしまふ譯である。斯かる習癖が出来るのは、親の態度やこれを矯正しようとして指を口から離したり、色々な矯正器を使用するだけしかやらないで、其奥にある榮養的原因を無視する事に起因すると言はれる。

斯かる癖は豫防する事が先づ必要であるが、之は榮養状態と關係が深いから、先づ食餌の質と量を適當にする必要がある。若し癖が出来てしまつたら、年少幼兒の場合には靜かに指を口から離すさか、子供に何か握るものを與へる様な單純な方法がよい。器具を用ひたり、胡椒をつけたりするのは子供が大きくなつて自分でも矯正しようとの態度になつてからの方がよい。唯罰として斯かる方法を用ふるのはよくない。年長幼兒の場合は更に矯正に努力しなればならないが、この場合若しこの癖がもつて一般的な困つた性格の一徴候である場合には、一般的生活を改める事によつて直る。例へば或五歳の子供は何時も母親とばかり遊

んでをり、玩具等が充分あるにも拘らず指を吸つてゐた。ところが適當な友達と遊ぶ様になつて子供の生活態度が改善してからはこの癖は無くなつた。又年長兒の場合には子供の誇りに訴へて、自ら進んで矯正様な態度をせよとせ、指を吸はなかつた日には褒美をやつたり、日課表に成功のしるしをつけさせたりするのがよい。

爪を噛む癖 之は指を吸ふ子よりも活動的な、落付かぬ子供に見られる。之は三歳以後から現れ學童には三割位見られる。この癖は智能や身體状態と關係はなく、又手淫等の困つた行動と結つく譯でもない。又神經質な子供に限つた譯でもない。強ひて言へば家庭内に何か緊張的な空氣がある場合に起る。故に之を矯正するには其緊張を解き、子供を健全な性格のものにする事が第一である。

癩癩 子供はよく怒つて癩癩を起す。少い子供で一日に平均〇・一三回、多い子供は三・六三回起すと報告されてゐる。この癩癩は母親を困らせるさ見えて、教養相談に来る者の三割位はこの點を訴へてゐる。

癩癩はぎの年齢の子供にも見られるが、大體年齢と共に減じてゐる。満三、四歳頃が一番激しいとも言はれる。又智能の低い程多くなつてをるとも言はれる。

癩癩の起る直接の原因は子供の活動や計畫が妨げられたり、妨げられたと思ふ事によつて起る。併し之は表面の原

因で、更に深い原因は家庭の躰や教育態度に在る。即ち子供が癩癩を起した時の取扱ひも、悪い手本を教へるものがある事が原因である。

子供の無理な要求を通して其欲望を満してやるも、やがて子供は要求を満したり、親の注意を惹く手段として一々怒つてみせる様になる。従つて不常な要求や、誤つた要求の仕方の場合は無視したり、他の遊びをさせたり、一人で放置してをくまよい。

次に怒りばい、興奮性の父親や神經質のいら／＼した母親、或は酒癖の悪い父等は子供に癩癩の手本を教へる者である。又子供が遊んでゐる時に考へなしに親が中止させたり、妨げたりする事が重なるも子供は癩癩持ちになる事もある。要するに親の斯かる態度が癩癩の主な原因である。

又子供が風邪をひいたり、空腹や、疲勞してをる時は怒り易いし、身體的異常が原因になる事もある。斯かる場合は先づ其身體的狀態を改善してやる事が第一である。

虚言 故意に偽を言ふのが大人の虚言であるが、子供の虚言には色々な性質のものがある。バートは次の様な種類をあげてゐる。

1、遊戯的虚言 幼児の空想的話しから生じるもの。
2、混亂的虚言 子供が充分知らない事について説明を求められたり、色々質問を投げかけられて混亂した話を

してしまふもの。

3、虚榮的虚言 他人の注意を自分に惹かうとして虚構の話をするもの。

4、復讐的虚言 にくしみや復讐の武器として虚言を言ふもの。

5、言ひ譯の虚言 禁じられた事を犯した場合の言ひ譯。

6、利己的虚言 他人をだまして味を占めようとする惡意のもの。

7、利己的虚言 他人をかばはんとして虚言を言ふもの。

8、社會的虚言 大人が社會生活をなすに當り、便宜上使ふ虚言。

従つて初めの三つや最後のもの等は眞の虚言ではないから敢て問題にする必要はない譯である。併し親等は其區別が充分出来なくて、小さいくせにもう虚言を言ふ様になつたと言つて心配する事が多い。

教育相談に來る大部分の者はこの點を訴へてゐる。この虚言の傾向は四、五歳頃から始まり、九歳頃が最も多く、其後は減する。尤も女の場合は十七歳頃まで増加する言はれる。又十二歳頃までは智能の高い者程虚言を多く言ふ傾向がある。それ以上の年齢に於ては智能も虚言もは關係

はない。

斯かる虚言を直すには、虚言自身よりも先づ其理由を見出す様に努力しなければいけない。このためには事實をまづつきよめなければならぬ。一人だけの言ふ事でなく数人の言葉から事實を確定する事も必要である。斯かる虚言のなされた前後の事情を確めた後に、子供自身の言ひ分を聞く。この場合虚言を非難し責める態度をこつてはいけない。非難はもう既に充分行はれてゐるから、最もよい方法は自ら子供の水準に降つて行つて、親切に熱心に子供の困難をこしてゐる事柄について話してやる事である。既知の知識に基いて何故子供が虚言を言はねばならなかつたかを調べる。この事が分つたら、次に子供の誤つた考へ方や、親の態度や環境の好ましくない點を改める事に努力して行く。彼の劣等感や不安感を克服させてやり、虚言を言ふ必要がない様にしてやるのが最も賢明な方法である。

以上の習癖や其他前回に取扱つた困つた問題を通じて注意すべき事は、斯かる困つた問題は子供の病氣であること考へ、其原因が身體的なものに在りはせぬか考へる傾向が強い事である。遺尿をすれば生理的な故障があるのでないか、癩癩持の子は神經質で、小兒精神病になりはせぬか直ぐ心配する。問題が六ヶ敷くなり、教育に手こずるに直ぐ身體的な病氣や缺陷のせいにしてしようとする傾がある。勿

論身體的なものが原因になつてゐる場合もあるが、多くの場合は親自身の中に、其子供に對する教育態度の中に原因がある事に氣付かねばならない。燈臺下暗しと言ふが、親自身には自分の遣り方の缺陷や、自分の家庭環境については案外に氣が付かないでゐるものである。

子供の不良化と言ふ場合にも、生れ乍らにして不良な子供が居る譯ではない。不良化の恐れのある素質を持つた者はるよう。例へば意志薄弱さか情緒性不安定等の者はるよう。併し斯かる子供が凡て不良になる譯ではなく、これに環境的、後天的悪原因が加つた場合に不良化するのである。不良化の原因の一半は環境的なもの、即ち家庭の雰圍氣、教育態度、夫婦關係、友人關係等にある譯である。故に斯かる生活環境に注意を拂ふ事が必要である。

一般に親は自分の家庭や教育態度には自覺せず、自分達の遣り方でよいのだと自己辯護する傾向がある。第三者から見れば明瞭に分る缺陷も自身には氣付かないものである。斯かる故に多くの家庭の遣り方を見てをる保姆なり、教育相談にたずさはる人々の意見を聞いたり、指示を受けて、自分の家庭の缺陷や短所を自覺し、その改善や除去に努める事が必要である。(了)

大東亞戰爭必勝完遂

幼児の母



昭和十八年
三月

日本の幼稚園の保育修了式

今月の保育修了式は、お子さん達の大喜の日です。心からお祝ひしますが、どうぞ、かういふ日にこそ、國の恩を感じ、國に報いる心を起させたいものです。勿論お子さん達に、さうしたことが、充分理解させることはむづかしい。が、理解がむづかしいだけに、愈々、はたのものゝその心持ちが大切でです。母とは、子どもに教育する前に、子どもに代つて感じてやらなければならぬことが廣くあります。さうしてその感じを、我子に感じさせるのです。

保育修了式に、子どものごとながら嚴肅性があるのは、つまり、國といふ意識に結びつくところにあるのです。たゞ、自分達の力、自分達の幸福といふだけだつたら、この大東亞戰爭下、小さなことに過ぎませぬ。幼稚園の門に國旗を立て、君ヶ代を合唱し、國民儀禮をして式をするこゝはありませぬ。お母さま方はそこをよよく感じて下さい。それでこそ、日本の幼稚園の保育修了式です。

幼稚園保育幾年。いろ／＼の教育を受けられました。しかし、その中で一番大切な教育は、國恩の感謝と、報國の心との芽ばえも、正しく培はれたことです。これから國民學校に入學して、それを益々練成せられるのです。保育修了も、その意味で目出度いのです。

幼稚園から

○修了を喜んでゐられるお子さん達を見てゐますと、まこと行届かなかつたと思ひます。お母さま方からお禮などないはれますと、全く恐縮いたします。これが三月の私達の心持ちです。

○幼稚園を終つて、國民學校の兒童になられる。その希望に輝いてゐるお子さん達の目を見ますと、つり込まれるやうに嬉しく勇ましくなります。お母さま方がそれを喜んでゐられるのを、心からお察し出来ますし、又、お察し出来る以上にぞんないでゐらつしやるだらうと思ひます。これが三月の私達の心持ちです。

○かうして幼稚園を第一段階として、次々に登り進んでゆかれるお子さん達の將來が、明るく楽しく想像せられたり、嚴かに期待せられたりします。そして、もう一度お子さん達の顔を見ます。なんといふ親しい顔でせう。これが私達がいつまでも忘れないお子さんの顔です。

國民學校への入學に就て

倉 橋 惣 三

「いよ／＼國民學校ですね。お目出度うございませうが、初めてですの
で、どういふ風にやつたらよろしいの
か、頓と分りませんので。昨日も、國民
學校へ上つたら、しつかりおしよといつて
やりましたが」

「おや／＼、もう卒業のことを考へてゐら
しやるのですか。親の心は先きを先きを
と楽しんでゐるといつた人がありますが、
流石に感心しました。」

「あら、あんなことをおつしやいまして、
さういふ譯でもございせんが。」

「いえ、じようだんですよ。しかし、卒業
も大事ですが、入學の初めも大事ですね。
たしが初めての御入學でしたね」

「さういふことでございませうか」

「さういふ譯でもございませうか」

「あら先生」

「さういふ譯でもございませうか」

「さういふ譯でもございませうか」

子どもの質問

一 愛 讀 者

「日蝕つてなわに？」「日蝕つてどうい
ふの？」先日、「世紀の日蝕」の頃、こんな
質問を子ども達から受けられたお母様方
がきつと澤山おありでせう。何とお答へ
になりましたかしら。私もその質問をさ
れた母親の一人です。

或人は子どもに質問に、大人がありき
たりの理窟をおしつたり、大人の觀
念的な、知つた振りの即答やらをしない
で「さあね」と考へさせる事が何よりだ
と申されます。「考へてごらんはともか
くも、さあ、知らないよそん事」むつ
かしいからね、お母さんにはわからない
よ」「先生にきいてごらん」では子ども
の欲求を満足させないばかりか、折角知ら
うとする心、所謂科學する心の芽を害ね
てしまひさうです。どうしてなの。「なぜ
かうなるの」ときかれる毎にこれはかう、

「わが子を初めて國民學校に入れる母の覺悟ですね」

「はっ」

「お子さんにはまだこれからのことで、國民學校がどういふところか分かりません。それで覺悟のしやうもないかも知れません。しかし、お母さまは、それでは濟みますまい。わが子の進む國民學校といふところに就て、豫めよく知つてゐなくてはなりませんね。その上で覺悟を……」

「覺悟々々とおつしやらずに。つい申したのですから」

「なかに、子どもの方へは少々可笑しい言葉だつたり、無理なことでもありますが、母の方には、實際覺悟がいますので」

「世間には、わが子を學校へつれて行つて、先生に渡せばよいと思つてゐる人がありますね。あれでは親がついてゐるわが子の入學ではありませんね。わが子のほんたうの入學は、親の入學でもあるのですからね」

「はあ」

「親も入學するといふと變ですが、國民學

校のことをよく研究して置くことですね。わけても、國民學校一年生の教育がどういふ風に行はれるものかといふことをね」

「自分の時のことは古いことで」

「古いところではない、小學校でせう。殊に低學年の様子は、あなたのいらつした時とは、まるで變つてゐますよ」

「よく教へていたときたういふことです」

「さう簡單にはいきませんがね。先づ國民學校令をよく讀んでお置きになることですね。それと同時に、國民學校の教科書をね」

「はあ」

「國民學校令を讀むと、國民學校の教育の方針や性質がよく分ります。母もそれがつてゐないと、わが子の導きは出来ませんね。それから、教科書を御覽になると、今日の國民學校低學年のことが凡そながら分りませう、折角の教科書を子どもに與へて、自分はそのいも見ない親がありますからね。それでは覺悟もつきませぬね」

「あらまた。でもよく分りました。とにかく早く拜見しまして、またお話を伺はせて頂きます」

「三月の親の仕事ですね」

あれはあゝと答へてしまふのはむしろ、わたくしも知れませんが、答へに困れば、いまにわかる」「本にさう書いてある」と言へませうから。でもそれではどうかと思ひます。その質問によつて違ひますが、いつも母親もともに考へる態度をとり、わかり切つた事でも一應「なぜかしら」とこちらも疑問にし「かうぢやないかしら」といふ風にもつてゆく。少しでも考へる餘地を子どもに與へてこちらからも「ぢやかうなつたら」と更に一歩前へ疑問を進めてゆく事もあつていふと思ひます。そしてその時せひ解決してしまはうとしないで疑問を残しておく事もあつていふのでせう。心身忙しい母親にはこれだけの事も思ふにまかせませんが。

玄米食と野菜

園藝室

玄米食を致すやうになりましたに就て、これまで野菜類から求めて居りました營養分に多少變化を來たして參りました。即ち従前野菜類に望みました主要成分は、ビタミンA、B₁、Cでありましたが、B₁にありましては玄米の中に相當含有されて居りますので、さほど必要がなくなつたさうであります。

次にはカルシウムの問題でありまして、玄米には是も含まれては居りますが、他の含有成分マゲネシウムの作用で減少されるとの説を唱へる人もあるさうであります。それ故成長盛りのお子様や、妊娠の方々は、特にこのカルシウムを含んで居る野菜の攝取が必要ださうであります。

また昨今油脂の配給も少ない折柄でございまして、脂肪を含んで居る野菜もなるべく食べさせたいものと思ひます。左に是等の成分を含む野菜を御紹介致します。

一、ビタミンA・Cを含んでゐる野菜類。(B₁をも含んでゐるものがある)

キャベツ、苜蓿、菠薐草、白菜、小松菜、パセリ、葱(青い部分にCが多い)、アスパラガス、人参、玉葱、大根、蕪菁、甘藷、牛蒡、里芋、蒜、胡瓜、茄子、蒟蒻、トマト、南瓜、西瓜、落花生、大豆、馬鈴薯、花椰菜等。

二、カルシウムを含んでゐる野菜類。

菠薐草、キャベツ、シソ(その外のものでも葉菜類にはたいいてい含まれてゐる)大根、牛蒡、甘藷、玉葱、蒜、里芋、葱姑、豌豆、蠶豆、大豆等。

三、脂肪を含んでゐる野菜類。

落花生、胡麻、大豆、西洋人参、玉葱、蕃椒、葱(白色部)、シソ(實)等。

枝豆の作り方

蛋白質と脂肪を多量に含み、且つ栽培が容易でありますので、その作り方の方の概略を記させよう。

一、土質は粘土、又は粘質壤土がよろしく、肥沃に過ぎる土壌は莖葉が繁茂しすぎて却つて結實する事が少ないのであります。それ故日照さへ好ければ、新しく開墾した所で尙さほど精耕しない所に充分作ら

れます。

二、品種は夏大豆といふ早生種を選びます。

三、播種は四月中下旬に畑に直播し、播き方は一ヶ所に二、三粒宛點播と致します。

四、肥料、堆肥は肥沃な土壌には必要なく、瘦地にのみ施し、この場合もよく腐熟したものを基肥として入れます。

人糞尿も生育の模様を見て、播種後一ヶ月位して極稀いものを少量施し連れぬやう注意します。

豆類に適當な肥料は灰類でありまして、之は草木灰いづれでもよいのでありまして、基肥として播種前に土中に耕し込んでおきます。

過燐酸石灰、又は米糠が基肥として入れられますれば尙更結構であります。

五、その外の手入としては、時々中耕し、除草する事。又土寄をして莖の倒れぬやうにしてやる事です。之は開花前に終るやうに致します。

六、收穫は大抵播種後八、九十日で、七月中旬頃になります。莢中の子實が肥満すれば莢は綠色をしてゐてもよいのであります。